

神名の外に、わたづみてふこと、は見えす、海をともなり、延喜式などまでも、たゞ和多都美とよみあり、り、多を濁もひがことなり、綿字を借、又略此説に依べし、

〔八雲御抄三上儀〕海 わたつうみ わたつみ わたのそこ わたのはら うなはら をして

わたつ海にてにまきもたる玉といへり やへのくま居所浪せく海清輔海のもくつ、基俊、川に

と難す、但在後 あさなき 夕なき あら海万 あらつ、万 あを ありそ、或北陸道海 よそ

撰并狭衣歌、

平云歌、仲 おほ こしの 西の

〔藻鹽草水邊〕海 同名所

わたつうみ書也、海の名也、只海路と只可心得也、或海底と書てわたつみとよむ、山神をも山つみ共

也、又わ紀たつうみと云々、されば海神と書てめわはつみとよむ事、なつみとよむ、う、わたむして書

なはら あらうみ ありそ海、只海の北陸道名也、青海 よそ海、四海也、をしてるとを讀り、をし難波

と、はうみ云也、にほるとは湖を言云々、なにはの外を、してるとよめる、歌なし、然ばうみ、の

又云、舟を、し、出、由、の、詞、也、な、に、は、よ、む、事、に、な、れ、り、又、ば、を、し、て、る、は、押、照、也、に、ほ、し、出、る、は、湖、也、詞、に、あ

り、そのめぐり やへのくま居所の波せく海、清輔説と、海もくつ、と難、但後撰、并狭衣、あさなき

あさけのなき なきたる海 夕なき、云は、波、風、ま、つ、か、な、る、也、先、大、方、風、の、事、也、な、き、と、お、ほ、海、ま

し、の、海、西、の、海、が、は、ら、に、は、な、に、は、の、面、の、ま、づ、か、に、平、々、た、る、也、又、只、う、み、の、面、也、又、云、西、へ、さ、す、鹽

なる、也、四、の、海、海、の、ふ、す、ま、の、す、ま、に、付、也、是、は、海、海、の、中、尋、い、か、猶、可、お、ほ、き、海、ま、な、て、る、枕、言、の

也、へた、浅、き、所、を、云、也、海、へ、と、あ、さ、海、つ、ら、か、海、濱、り、も、み、る、も、な、く、め、も、な、き、海、後、撰、是、海、山、か

けて、入海、四方の海、せ、ば、空、つ、た、そ、海、の、き、は、め、か、け、て、見、わ、た、

〔源氏物語十磨〕やよひの、つ、いた、ち、に、い、で、き、だ、る、み、の、ひ、け、ふ、な、ん、か、く、お、ほ、す、こ、と、あ、る、人、は、み、そ